

「明日からの実践に繋ぐ」生活科・総合的な学習の時間

大分県教育庁義務教育課の友永有司指導主事を招聘し、生活科・総合的な学習の時間研修を行いました。

午前中に授業参観、午後から事後研究会と友永指導主事による指導・講評をいただきました。

今回は、1年2組の生活科、4年3組の総合的な学習の時間の授業に対して、単元目標や評価規準の書き方、授業での有効な手立て、本校今年度研究テーマ「情報活用能力の育成」等の観点からお話をいただきました。

まずは、本校職員が生活科(低学年部)と総合的な学習の時間(中・高学年部、栄養教諭)で分かれて、事後研究会を行いました。今回の授業(児童の姿)から、授業者の有効だった手立て、日頃の実践をしている上での困りや質問、それらに対するアドバイスを話し合いました。



事後研究会

次に、友永指導主事による指導・講評をいただきました。生活科については、2つの小単元(『ふゆとなかよし』の「(5) 季節の変化と生活」「(6) 自然や物を使った遊び」)の内容を同時に学習する際、両方の単元で「つきたい資質・能力」を指導者はきちんと留意して指導をすることが大切であることが改めて確認できました。



生活科について



総合的な学習の時間について

総合的な学習の時間については、児童が取り組んだ活動の先に目指す最大の目的について確認することの大切さや、自分たちの取り組みに対する評価(全校児童、栄養教諭等)について考えさせることが、取り組んできた学びの価値の認識や次の学年の学びへと繋がること等についてお話いただきました。

授業、職員間の対話、友永指導主事による指導・講評で、明日からの実践に繋がる研修ができました。